

2018年度 海外研修(バリ島) 報告 ～サラスワティ外国語大学訪問～

小 澤 和 恵
(こども学科 教授)

3月13日、サラスワティ大学附属の幼稚園を訪問した。

園に入ると子どもたちが待っていてくれて、早速、歓迎の演奏とバリ伝統の踊りで迎えてくれた。



女の子たちによる踊り



男の子たちによる踊り

バリダンス独特の目や指の動きは、子どもながら表情豊かで、引き込まれるものがある。訪問するたびに、小さい時期から、日常的に文化、伝統を大切にされた教育がされている素晴らしさを感じる。

私たちも、「Selamat Pagi (スラマ パギ=おはよう)」の歌であることを伝え、日頃保育で歌っている「おはよう」の歌を振り付きで披露すると、子どもたちも振りを真似してくれた。



♪小鳥もチッチと歌っています～♪



いくつかのクラスを見学させていただき、それぞれのクラスで、先生や子どもたちと交流することができた。あるクラスの先生がチャナンの作り方を教えてくださった。チャナンは、バリヒンズー教の人々にとって毎日神様に捧げるお供え物である。ヤシの葉を割いたものを編むようにして器を

作って、中にお花などを入れ、毎日決められた場所にお供えするようである。



みんなで集合写真を撮って、幼稚園を後にした。

幼稚園訪問後、サラスワティ外国語大学を訪問した。サラスワティ外国語大学とは協定を締結しており、バリ研修では毎回交流会を行っている。



学生によるバリ舞踊

まず、サラスワティ外国語大学の学生たちがバリの舞踊を披露してくださった。子どもの時から伝統を大切に踊り継いでいく文化を感じさせられる。

その後、サラスワティ外国語大学学長の

KOMANGSULATRA 先生、本学学長の藤田先生からのごあいさつがあった。この日、KOMANGSULATRA 学長の誕生日ということで、サラスワティ外国語大学の学生からのケーキと祝福の言葉があるという素敵なサプライズがあった。



Happy Birthday SULATRA 学長！

それから、サラスワティ外国語大学の学生によるバリの文化についてのプレゼンテーションがあり、特に、バリの「ニュピ」についての説明をしてくれた。



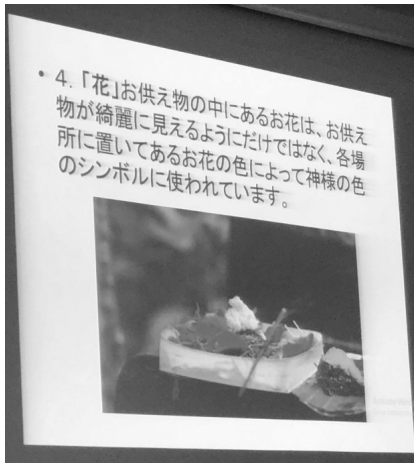
学生によるプレゼンテーション

「ニュピ」というのはバリ島の新年にあたる日である。『静寂の日』と言われるように、ニュピでは以下の4つのことが禁止されるそうだ。

amati karya アマティカルヤ：働かない
amati gni アマティグニ：火、電気を使わない
amati lelangan アマティルラン：遊ばない
amati lelungan アマティカルヤ：出かけない

そして、神様へのお供え物「チャナンサリ」に

についての説明があり、「チャナンサリ」の歴史とお供え物の花の意味などを教えてもらえた。



白い花は東の方に置いてあり、「Iswara イスワラ」と言われる神様の象徴。赤い花は南の方に置いてあり「brahma ブラフマ」と言われる神様の象徴。黄色い花は西の方に置いてあり「mahadewa マハデワ」と言われる神様の象徴。青または緑の花は北の方に置いてあり「wisna ウィスヌ」と言われる神様の象徴ということである。

この他にもたくさんの神様の名前を耳にする。まさに神々の島であり、信仰が生活の一部になっていることを実感する。

また、サラスワティ外国語大学の学生の日本語力とプレゼンテーション力の高さにとても感心させられた。

次に、本学の学生が「祇園小唄」の踊りを披露した。京都の四季と舞妓さんの心情が歌われていることを説明し、雅に踊ってみせてくれた。



純真学生による「祇園小唄」

そのあと、今回の研修に同行してくださった剣道師範の早川先生が、日本の文化として「剣道」の紹介をした。「剣道」は「礼に始まり礼で終わる」ことのお話、そして、剣道の型についての説明がされた。サラスワティ外国語大学の学生に「面」を体験してもらうことになる、ほとんどの学生がやりたいと手を挙げ、次々に、「面！」と、面を打っていた。



早川氏親子による「剣道」の紹介

最後に、本学の学生有志によって、「ハナミズキ」をフルート、アルトサクソ、電子ピアノで演奏した。「ハナミズキ」は、バリの学生にも人気のようで、口ずさむ学生もいて、とても喜んでもらった。



純真学生有志による演奏

そのあとは、準備していただいた昼食のお弁当を囲みながら、グループに分かれて学生同士の交流会となった。どのグループも、大学生活のことや興味のあることの話で盛り上がっていた。



学生同士の昼食会交流



最後に集合写真を撮り、サラスワティ外国語大学との交流会を終えた。